

北海道教区報

第565号

発行所

天理教北海道教務支庁

札幌市中央区南8条西11丁目

電話011(561)-1148

FAX011(561)-1190

E-mail:kyouku-h@vega.ocn.ne.jp

印刷

三浦印刷株式会社

福祉おつとめ総会

(令和元年11月3日)

北海道教区福祉厚生部(関野保部長)は、11月3日、教務支庁において、福祉おつとめ総会を開催した。

日頃、福祉活動に携わっておられる方々、また福祉活動に関心を持っておられる方々が一堂に会し、おつとめを通しておたすけを願い、更に北海道教区における社会福祉活動の更なる前進を誓い合う場として、毎年開催している。

この日集まったのは支部福祉担当者、道の教職員の集いの方々、一般参拝者を合わせて70余名、ここ数年では一番多い参加者を得た。午前10時、福祉厚生部の関野保部長の手にあわせて三殿を礼拝。その後、坐りづとめ、十二下りのおつとめが陽気につとめられた。

終了後、記念講演が行われ、本部員で本部福祉課長の板倉知幸先生が演台に立ち、社会福祉活動は、道の中でも、社会でも、大

切な部門であり、また、この活動を通して、お道のにをいを伝えることができる、いわば「お道の入り口になる」と、福祉活動の意義と重要性についてお話し下された。

(次ページ以降に講話要旨掲載)

最後に、関野保部長が挨拶に立ち、多岐にわたる福祉活動をおたすけにつなげていくことが大事であると訴えた。

なお、この福祉おつとめ総会の前日、11月2日の午後3時から、令和元年度後期福祉担当者会議が、教務支庁大會議室で開催され、24名が参加した。会議では、各部門の活動報告が行われ、特に献血活動の推進について献血推進委員会を設立する活動方針が提示され、また、ひのきしんスクー

ルや里親の活発な活動状況が報告された。なお、懸案であった福祉担当者会議は、従来通り、年2回開催することが望ましいという意見でまとまった。

(古川、記)



台風19号の被災地へ教区隊出動

甚大な被害を被った台風19号。全国各地から支援の手が差し伸べられる中、北海道教区災害救援ひのきしん隊(奥村尚人隊長)は、3次隊として福島に、4次隊として栃木に出動した。以下作業内容等を報告する。

●福島3次隊

期間 11月3日～7日

出動人員 17名

宿营地 磐城平大教会

作業内容 災害ゴミ・土砂運搬 家屋整理清掃 小屋解体

家財道具搬出

カーポート解体 ブロック塀解体等

●栃木4次隊

期間 11月6日～10日

宿营地 鹿沼市清州コミュニティセンター

出動人員 15名

作業内容 災害ゴミ・土砂運搬 家屋整理清掃 床はがし 床下洗浄消毒・整地 倒木撤去等

※詳細につきましては、天理時報11月10日・17日号。災害通信をご覧ください。



基礎講座北海道会場

11月10日、教務支庁を会場として開催し、21名の受講がありました。札幌市内を中心と本年最後となる開催とあって大勢の方がご受講下さいました。今年一年間ありがとうございました。来年も開催させていただきます。(事務局長・藤野充普)



福祉おつとめ総会記念講演 今生がされている元・いんねんを語り継ぐ

講師 社会福祉課長 板倉知幸 本部長

私は3年前前から本部の社会福祉課を持たせて頂いておりま

すが、今福祉がお道と社会との接点、お道への入り口になっていることが多く、里親や保護司・教誨師の活動や、障がいを持つ方々や献血といった様々な大切な活動を担っております。

そこで今、外への布教に加えて、内への丹精も必要とされています。子供を育てるといふ点から考えて、教会で育った子供であれ、信者さんの家庭の子弟であれ、なかなかお道に繋がってこない、という事が問題になつていきますので、それに触れた話を致したいと思ひます。

『どんなに避けようとしても』

三代真柱様のお言葉の中に「子供は親神様・教祖からの預かりもので、その考え無くしては、親の望まれる道、縦の伝道、信仰の伝承はないと思う。教祖の用向きにふさわしい子供に育て上げるのが親の責任である、と思ひます」というお話がありま

す。

ところが、今は信仰は個人の自由なので、個人に任せている、という方が多く、家を継ぐという事が分からない人が多くなつていますね。仕事を継ぐ人も少なく、建物もアパートやマンション、それに財産という事もあり



ますが、それよりも大切なのは、先祖や我が家の歴史までも受け継ぐということではないでしょうか。それが善きいんねんもあれば、悪いいんねんもある。日々ほこりを積んだのが、いんねんとなつて現れてくる。それを神様は尽くす理・運ぶ理によって、いんねんを変えていく、と仰る。つまりどんなことが起こつてくにも、必ず成すいんねんとい

うものがある。人生には、ああなりたいたいどんなに思つてもならない事や、なりたくないと思つていて、どんなに避けてもそうなつてきてしまう。すべて前生のいんねんによって、必然的になつてしまうものがある。

しかし人間は実際に起こつてくる事を、その状況に合わせた判断で、喜びに変える事が出来ます。

教祖の逸話篇の中に、梅谷四郎兵衛先生が子供を亡くした話があります。大阪から具合が悪かつた娘が出直しました、と教祖に申し上げると、教祖は「それは結構やなあ」と仰る。聞き間違つたのかと思つて、もう一度子供が亡くなつたと申し上げると「大きい方でなくてよかつた」と仰せられた。物事の視点を変える、悟り方が大事なんです。

『親子の縁が薄いいんねん』

私の家は信仰は私で四代目となります。初代は北海道教区長の初代を務めさせてもらった、板倉三郎と申します。明治九年にお兄さんの目の病から17歳で入信しました。教祖ご在世の頃は、警察の迫害干渉の中、ブ

夕箱に入れられたりしながら通られました。その中、子供を次々と亡くすんですね。八人授かるんですが、次男と四男しか残らない。次男は大学も出て、本部でのつとめも決まつた26歳で、丈夫だった。初代は、こいつが跡取りだと思つていた。まだ四男は15歳でしたから。

それが高熱を出して、出直してしまつた。気落ちしてしまつて、本部のつとめにも出ていけない位に落ち込んだ。その時、高知の二代・島村国次郎先生が訪ねて来た。「先生の信仰に付いていこう、と思つていたが、私の眼鏡違ひだつた」と言われて初代は目が覚めて「よう言つてくれた」と。教祖も、頼りとされる息子の秀司先生もこかん様も先に送つていられるんだと悟つて、初代は親子の縁の薄いのが我が家のいんねんである、と語つています。

『高熱が出ているのを喜ぶ』

私の父は昭和54年、41歳の時に顔色が悪いから病院で診てもらいなさいと、三代真柱様とまさ奥様に言われて、憩いの家病院に行きますと、腎臓がほとんど働いていない。心臓も弱つて

いる。なんでこんなにまで放つておいたんや！と叱られた。一か月で出直すかもしれんと言われて、まさ奥様に報告すると「喜びや」と言われた。優しく励ましてくれるものと期待していたのが、当時36歳の母は「何を喜ぶんや」と思つたそうです。

それで、かしの・かりもの話を聞かせて頂いていゝもの、日々のご守護、当たり前のご守護がある、十分食べることが出来た、出せた、ぐつすり眠れた、など喜び探をしていきながら心を作つていったそうです。けれども入院中、高熱が出る。そこでおさづけ取り次ぎの時も熱が下がるようお願いするが、なかなか良くならない。夫婦で語り合つたら「熱も神様がくれている。それを喜んで受ける心になつたらええやないか」となつた。すると翌日から熱が下がつた。つまり、たんのうせよ、という事ですが、難しいですね。

長男の私が中学2年生の13歳で、4人妹がいて一番下が2歳でしたから、この先どうなるのかと思ひました。2か月の入院で退院できましたが、身上がちで、当時人工透析の技術も進ん

でなかったので、5年持つかと
言われてました。一週間に3日
は透析後にしんどくて動けな
い。本当に父は落胆の底にいた
と思います。その中でも祖父が
元気でしたので、頼りにしてい
ました。それが、心筋梗塞で出
直してしまいます。本部でも御
用をさせられないと思っていま
したが、段々と体力もついて、御
用をしながら透析をする人が、そ
の父の回復ぶりを見て、元気を
もらおうと言う程になりました。

『私も子供が中2の時に』

私は39歳で家を継ぐことにな
りました。それが7年前の東日
本大震災の時に災害隊の御用の
ため4月に福島に向いた折
に、喉が痛くなかなか良くなら
ないのを聞いた本部長が「すぐ
に帰ってこい」と言う。しかし
連休に入って飛行機が取れな
い。それがキャンセル待ちで
ポツと取れて、すぐ憩いの家の
救急に入った。すぐ診てくれて、内
出血をあちこちしていると
言われた。家内が呼ばれて、先

生との話の中で、ハッとしたこ
とがあった、それは私の息子が
ちょうどその時13歳であったこ
とです。神様が全く同じいんね
んなんだよと言っている、と思
いました。

三代真柱様が「生きながらに
出直して、これから定める心
と、神様の御心が一緒になつた
ら、必ずたすけて下さる」と励
ましてくれました。

私は急性骨髄性白血病でした
が、先生が笑顔で「あなたの型
は同じ病気の中でも比較的治り
やすい型なので、2、3年前な
ら難しかったですが、今は飲み
薬が改良されて治りやすい型で
すよ」と言ってくれました。そ
れから薬を2年間飲み、今は半
年に一回診てもらう位になつて
ます。

『親里で育てて頂く』

明治14年に山澤為造先生のご
逸話があり、親に身上を見せて
子の出てくるのを待っている、理
が深くなつてきて、理が続いて
悪いんねんの者でも白いんねん
になる、という話があります。

当時はそうなのかなあ位にしか
思えませんでした。信仰も180
年続いた今になって、代が変

わつてきている中で、本當だつ
たなあと感じる訳です。

昭和43年の年頭会議の席で三
代真柱様が「信仰も二代三代と
移つてまいりますと、薄れてく
ると思うが、私は二代は二代、三
代は三代の道がある。初代の道
から一歩前進して、二代三代の
信仰の喜びとなる」とお話しさ
れています。家の信仰の元一日

であるいんねんをしつかり説い
て、続いてこそ道ですから、親



は背中を見せていれれば良いとい
うばかりではないのです。折々
の旬に繋いでゆく、おばに繋
がっていくことを話して頂きた

い。

また、おぢばの力によって、親
神様・教祖の膝元で育てさせて
頂く事も、非常に大切だと思
います。親里の学校の意味を考
えると、親に育てて頂くという事
になると思います。

私の一番下の子が小学校一年
生で、教祖130年祭を前にして、頭
が痛いと言ひ、診てもらおうと小
脳が腫れていると言われた。脳
腫瘍ではないが、小脳は運動を
司るところなので、全然動けな
くなりました。その時の事を天
理小学校の先生が学級通信で書
いてくれていて「みんなが朝の
神殿参拝でお願いをしてくれ
て、それから他の事を思えるよ
うに変わっていった」と。おぢ
ばには高校・大学ばかりか、修
養科・講習など子供が信仰を育
んでいく場がありますので、そ
れらをお勧め頂きたいと存じま
す。(要旨・文責藤田)

子供の未来を考える集い

福祉厚生部内の「道の教職員
の集い」(代表世話人・長井徹
雄氏)が主催となつて、11月3
日「子供の未来を考える集い」
が開催された。当日は、福祉おつ

とめ総会の開催日であり、おつ
とめに参加後、本部員板倉知幸
先生の記念講演を拝聴、次代の
道の後継者に伝えていかなけれ
ばならない大切な角目にふれ、育
成する側の認識を新たにしました。
またその後の集いでは、活発な
意見も飛び交ひ、実のある交流
が図られた。

参加者 13名

第29回女子青年大会(11月
3日)に教区女子青年が多
数参加(詳細は来月号)
※写真は前夜、よろこびフェ
スティバルで模擬店出店

新会長さん紹介

(令和元年10月26日お運び)

旭川支部

壮旭分教会(秦野)

奉告祭11月9日

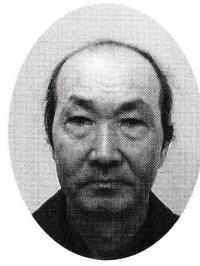


福田豊氏 (54歳)

紋別支部

北湖湧分教会(甲賀)

奉告祭11月17日



山本法秀氏 (68歳)

支部布教部長研修会

11月1日から2日にかけて恒例の支部布教部長研修会が開催された。集合後早速「神名流し」「路傍講演」のグループに分かれ教務支庁周辺で熱心に布教活動が展開された。また今回は布教講話として、統北分教会前会長・山本元先生をお招きし、「教



天塩支部献血ひのきしん 金色有功賞受賞

祖ひながたの道・親神様の十全の御守護」「おつとめ・おさづけ・ちばの理によって必ずたすけていただけるという信念を持つ」とのお話を聞かせて頂き、その後そのお話を元にねりあいを行った。夕づとめ後には、懇親会を行い、その中で支部活動の現状などを披瀝しながら、和気あいあいと過ごした。翌朝には、教務支庁周辺の清掃ひのきしんをさせてもらい、参加者一同意気揚々と各地へ散会した。

参加者 委員 5名
支部布教部長 20名

天塩支部での長年に渡る献血ひのきしん活動が認められ、この度、日本赤十字社より金色有功賞が授与された。

金色有功賞とは日本赤十字社が20年以上に渡り赤十字奉仕活動に従事した者、高額な社資の拠出者・寄付者、及び献血に貢献した者などを対象に授与する記章のことで、貢献した個人・団体に贈られる。

天塩支部では、昭和61年、「学生会春の集い」「全教一斉ひのきしんデー」に合わせて実施された「献血ひのきしん」の名のもとで、個々に参加していたが、通年できるひのきしんとして、平成5年10月旭川血液センターの献血車が名寄市、士別市の支部内両市に巡回が始められ、その巡回に呼び込みひのきしんを旭川血液センターに申し出て、実際に入った。

平成10年からは献血ひのきしん担当者(車の運転出来る者を含め)17名で両市を3ヶ月毎4日間の巡回に合わせて、車にアンプ・スピーカーを設置、テー

プにて献血車到来の情宣活動を行っており、その地道な活動が認められての受賞となりました。当時は、女性の実声であったが、現在ABC Dの4班のローテーションで、CDを使っ

けいじばん

◎立教183年学生生徒修養会

高校卒業コース

期間 令和2年3月10〜12日
受講対象

令和元年度高校卒業予定者
天理管内高校卒業予定者も可
募集人員 500名
受講御供 5千円
申込期間 (令和元年11月25日
〜令和2年1月31日)

※申込は直属教会を経て、本部学生担当委員会事務局迄
◎法律に関わる諸問題で相談の方は弁護士を紹介致します。教務支庁内の書記(渡部)までご連絡下さい。

◎手話・点字講習会

毎月1日、教務支庁にて午後6時から8時まで行います。
※雅楽練習会も併行して開催し

ています。(三布連)
◎毎月26日に本部月次祭遙拝式をおこなっております。

計報

北海道教務支庁日誌抄

10月	20日	育成部行事Y Yフェス
25日		教区長会議 災救隊幹部会議 (おちば教区事務所)
11月	1日	たすけ推進会議 支部布教部長会議
2日		支部長会議 福祉担当者会議
3日		福祉おつとめ総会
4日		任命願書発送
5日		布教の家 布教一課長 激励に訪問
8日		事情願書発送
10日		基礎講座 教区会場 講師 内田誠司 受講者21名
16〜17日		学生会おつとめ総会 累計 8723名
18日		学担、支部担当者会議 教区報編集会議